

主体的学習者を育てるための意識づけ ～生徒の自己肯定感を高めるための働きかけを中心に～

常翔学園中学校・高等学校 池澤 友宏

実践背景

常翔学園中学・高校一貫コースに所属する高校一貫生は、成績順（Ⅰ類・Ⅱ類）にクラス分けを行っている。また、カリキュラムも難関国公立大学に向けてのプログラムを実施している。

ただ、成績順でクラスを分けた場合、自クラスの生徒たちは、一番下のクラスになり、同じ一貫生との学力差、高校から入学した生徒との学力差で苦しんでいる。

さらに、個人面談での聞き取り調査で中学入試での「トラウマ」を抱えている子が多いと判明。また、何かと他クラスと比較されることも多くあり、「学び」に対して苦行のイメージが付いている。

結果、「自分には能力がない・やりたくない・できない」ということを理由に卑屈になる事が多い。「やっても、どうせ無理だ」と自分たちで言ってクラスにそのノームを作り上げる。そのことに悔しがることもなく、現状を甘んじて受け入れて、目の前にある「危機感」にも目を背ける状態。

【仮説】

現状：満足感・達成感が得られない状態（自己肯定感が低い）

そもそも学業（勉強）をやりたくない、と感じている生徒が多い

支援：「やればできる」「ただやっていないだけ」に気づかせる

「やったらできる」として、パラダイム転換させる

結果：「やったらできた」という満足感・達成感を得て、自己肯定感をアップさせ、主体的に学習する姿勢を身に付けさせる

実践方法

◆実践の対象：高校一貫コースⅡ類クラス（文理混合29名）
※高校同学年の全16クラス中、最下位のクラス

◆実践の期間：2023.4月～（現在も引き続き）

◆実践の内容（高1、2年生の2年間）

・4月のスタサポ①でまずは、自分の立ち位置の確認

・4～5月にかけて個別に個人面談

▶何が問題でつまづいているのか共有

▶学習の仕方（認知的な学習方略の指導）の指導

同時進行で、学習を「作業」にしないことを毎朝終礼で伝える。

「意味のない学習」をやめ、「意味のある学習」へパラダイムシフトさせる

15分学習（動画学習含む）を推奨

（東京大学薬学部とベネッセコーポレーションの調査結果）

・12～1月にかけて個別に個人面談・保護者懇談

▶保護者と現状・情報共有

▶何が問題でつまづいているのか共有

◆生徒に権限移譲し行事を主体的に運営させる

（校外学習・文化祭・留学交流会）満足度100%

▶LHRで「なぜ学ぶのか、なぜ大学に行くのか」1人1人考えさせ、近隣席と情報共有

◆調査方法

・4月・12月で自己肯定感のアンケート調査

・面談での聞き取り調査

・スタサポの生活・進路意識アンケート調査

・成績の変化

・行事への満足度調査

取得データおよび検証方法

▶左記の実践方法参照

結果

◆判明したこと

・実態把握の為のリサーチ不足だった（行動承認だけの表面の結果ばかり追った結果で、内面からの調査が必要）

・PDCA→RPDCAが必要

・そもそもの自己肯定感は高く、自己効力感が低かった

・存在承認は受けているものの、行動承認が多く評価される学校生活においては、自己を卑下することによって自己防衛していることがわかった

・成績基準に満たない入学者には、厳しい結果

・クラス担任のみでは、解決できず周りの教員も巻き込んでチームとしてのサポートが必要だと改めて実感

・学習への自己効力感と行事での自己効力感との相乗効果は見られなかった

・学習への自己効力感は、内面からのサポートが必要

・負のピア効果が発生している

◆生徒の変化（目に見えての変化）

・自習時間（GT）に生徒たちによる教え合いが始まった

・生徒同士の共に成長していく姿が見られた

・学習に対しての悩みが多くなった

・やり直しに時間をかけるようになった（作業率が減った）

・諦めから、悔しがる姿が多くなった

・他人の点数を気にするようになった

スタサポ（1年）4月D1（37～）→8月C1（43～）

スタサポ（2年）4月C3（39～）→8月C2（41～）

2024年度 スタディーサポート 2年生 2回(27401) 変更 比較対象の設定				2024年度 スタディーサポート 2年生 2回(27401) 変更 比較対象の設定			
進路生活				進路生活			
国語 数学 英語 071:図面に直垂してもあきらかにやり抜く				国語 数学 英語 060:計画や目標を決めて学習している			
回答	今回(%)	前回(%)	±	回答	今回(%)	前回(%)	±
あてはまらない	10.3	17.2		あてはまらない	6.9	27.6	
あまりあてはまらない	13.8	17.2		あまりあてはまらない	31.0	13.8	
どちらともいえない	44.8	41.4		どちらともいえない	37.9	34.5	
ややあてはまる	24.1	24.1		ややあてはまる	13.8	20.7	
とてもあてはまる	6.9	0.0		とてもあてはまる	10.3	3.4	

2024年度 スタディーサポート 2年生 2回(27401) 変更 比較対象の設定				2024年度 スタディーサポート 2年生 2回(27401) 変更 比較対象の設定			
進路生活				進路生活			
国語 数学 英語 012:現在の気持ちや状況				国語 数学 英語 014:悩み・相談したいこと			
回答	今回(%)	前回(%)	±	回答	今回(%)	前回(%)	±
勉強が楽しくやる気になっている	3.4	0.0		学習について	41.4	24.1	
頑張って成績を伸ばしたい	27.6	44.8		友人について	0.0	0.0	
成績を伸ばしたいが方法がわからず悩む	31.0	20.7		これからの進路選択・進学先決定について	20.7	37.9	
勉強は楽しくないがとにかく勉強している	6.9	6.9		部活動のことについて	0.0	3.4	
勉強したくないがしかたなく勉強している	20.7	27.6		家庭や保護者のことについて	0.0	0.0	
勉強が無意味に思える気持ちになれない	10.3	0.0		（家庭を除く）学校外のことについて	0.0	0.0	
				その他	3.4	3.4	
				特になし	24.5	31.0	

考察と今後の課題

2年間通じて、追跡調査したが、大きな変化は見られなかった。自己肯定感が低いというよりも、学習に対する自己効力感が低い生徒が多いことが分かった。小学生の時から「できない」と深く刻まれてる様子。社会的自己効力感は低くないが、自己統制的自己効力感・学業的自己効力感が低く、遂行行動の達成（成功体験）をいかに積ませるかが大きな課題。また、自分の潜在的な能力が低いという自己認識を持たせないような関わりや指導を行うことが重要と考えられる。